Japanese Red Cross Society NEWS

赤十字 NEWS

http://www.jrc.or.jp

September 2018
NO.940
9

平成30年9月1日（毎月1日発行）
赤十字新聞　第940号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

手から手へ 必要なところに

（広島県支部）

7月の豪雨災害に見舞われ避難を余儀なくされている人々のため、
日本赤十字社の各県支部の備蓄倉庫から安眠セットなどの救援物資を搬出し、お届けしました。
日赤では全国の支部が万一の災害に備え、物資の備蓄と管理を行っています。

CONTENTS

FEATURE__2・3
西日本豪雨災害
特集1 被災地での活動
被災地に寄り添って

FEATURE__4
西日本豪雨災害
特集2 防災啓発
まさか、我が家が…

TOPICS__5
「遺産を贈ります」
～遺贈という選択～

ドキドキ体験！
みんなのボランティア
「お祭りサポートボランティア」（埼玉県）

AREA NEWS__6・7
全国／宮城／福島／福井／石川・長崎／
和歌山・山口／広島／大阪

健康豆知識

WORLD NEWS__8
ギリシャ大規模森林火災
インドネシア・ロンボク島地震 救援金受け付け中

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL：03-3438-1311
一部20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成30年9月1日（毎月1日発行） 第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 平成30年9月1日（毎月1日発行）

西日本豪雨災害（平成30年７月豪雨災害） 特集１ 被災地での活動

被災地に寄り添って

日本赤十字社の被災地支援は、医療救護や救援物資の提供だけではありません。避難所生活において、病気の予防などの健康面でのサポートや不安やストレスを和らげる「こころのケア」活動など、被災地の皆さんに寄り添って１つ１つきめ細やかに行っている支援があります。

避難所となっている倉敷市立岡田小学校の体育館で、約1カ月、家族7人で生活した大森さん。（左から）大森茂巨（しげお）さん、廉音くん、真由子さん、秀子さん。西日本豪雨災害の被災地では、まだまだ多くの支援を必要としている。

大森廉音くんも登場する、日赤の災害対応の動画をYouTubeで公開中

倉敷市真備町にある自宅が浸水し、岡田小学校での避難所暮らしを余儀なくされていた7人家族の大森さん一家。３人姉弟の末っ子、廉音（れんと）くんは避難所に来てから発熱し、日赤の救護班の手当てをうけて元気を取り戻しました。大森さん一家は、みなし仮設住宅への入居が決まり、取材当日は避難所生活の最終日でした。残念ながら、一緒に暮らせるみなし仮設住宅の物件がなく、７人家族はバラバラに。おじいちゃん、おばあちゃんと廉音くんが再び並んで眠れる日が来るのは、少し先になりそうです。

interview

がんばる「支援者」をサポート

日本赤十字社医療センター 臨床心理士 秋山 恵子

「どうしようもない。でも納得できない」長期化で疲弊する住民と行政

「こころのケア」活動に必要な情報を収集し、ニーズの把握と、何をしていくべきかを考える“アセスメントチーム（活動調整班）”として被災地に入りました。呉市内を巡回して一番印象に残ったのが、川尻まちづくりセンターの職員の方たちの奮闘と努力です。

“呉市内全域の水道復旧”の通知の後、川尻地区の水道復旧は『再開のめどが立たず、長期化する』と訂正発表があり、住人から落胆と憤りが噴出、感情の矛先は窓口である行政の職員に向かいました。どうしようもないとわかっていても不満を抑えられない。職員は全てわかった上で住人の不満を受け止め、誠心誠意の対応を続けました。ただでさえ被害の大きな被災地でのインフラの断絶。不満を言う側、聞く側、双方の心が強い負担を強いられている現実がそこにありました。

職員の方も、川尻地区に暮らす被災者です。自分の家やご家族のことを二の次にして住民を支援する職員の方々に対し、広島赤十字・原爆病院と庄原赤十字病院のスタッフが支援者支援として「こころのケア」を行いました。

「こころのケア」は、被災地で生活を立て直そうとしている人々に寄り添い、支える活動です。コミュニティでも互いを支えあうことができるように、その理念や習慣を地域に残していくのも大切な役目だと感じています。

interview

病気を未然に防ぐことも医療支援の１つ

岡山赤十字病院 医療社会事業部長（兼）循環器内科部副部長 齋藤 博則

「トイレ掃除は誰が管理していますか？」こんなアドバイスも病気の予防に

７月７日（土）の早朝、川が決壊。同日、先遣隊として水没直後の倉敷市真備町に向かい、1000人以上が避難する岡田小学校を訪れました。避難所には持病の薬を持たずに逃げてきた方も多く、慢性疾患の患者が災害関連死にならないよう、救護所の開設の必要性を感じました。

今回の災害で特徴的だったのは、大雨の後の猛暑です。私は循環器内科の医師なので、真っ先に避難所での心筋梗塞や脳梗塞を危惧しました。気温が高く脱水状態になると、それらの病気やエコノミークラス症候群などが発生しやすくなります。水分を十分に取ってもらうには、トイレを我慢しないように、トイレの整備などの環境づくりも大切です。また清掃が滞っていたり、ゴミが放置されているなど避難所運営がうまく回っていないと、想定外の病気が蔓延（まんえん）することもあります。“病気の予防”という観点から医療とは直接関係のない保健衛生面のアドバイスも、運営者に対して行いました。実は、最初に訪問した際には「緊急の病人はいないので（お医者さんはいなくても）大丈夫です」と言われたのです。しかし、これらのアドバイスを通して、日赤の役割をあらためて認めていただくことができました。

被災地の医療救護で大切なのは“現状の把握”です。そして被災者の現状を知っているのは現場で働く保健師さんです。今回、日赤の働きかけで医療と保健の統制を図る「KuraDRO（倉敷地域災害保健復興連絡会議／クラドロ）」が発足。これにより、情報の伝達がスムーズに行われ、被災地の保健衛生問題の解決に大いに生かされました。その後、日赤の救護班は撤収しましたが、今後も検診車など、地元の医療が復興するための手助けをしながら支えていきます。

interview

被災地の先生に「こころのケア」レクチャー

伊勢赤十字病院 臨床心理士 中井 茉里

「傷ついている子どもたちに、どのように声を掛けたらよいのか」

７月下旬、広島県のとある小学校では、各学級の担任教師による家庭訪問が予定されていました。そこで日赤の「こころのケア」班の臨床心理士に、災害で身内を亡くしたり、自宅が損壊するなどした子どもたちと、どうコミュニケーションをとるべきかアドバイスしてほしいと教育現場から要請があり、先生方へレクチャーを行いました。

心が傷ついている子どもに対して、このように声を掛ければよいという“正解”はありません。ただ、年齢に応じて、子どもたちのストレスサインやサポートの仕方に特徴があるので、先生方がそのことを把握し、なるべく早くそのサインをキャッチすることが大切です。衝撃的な出来事を経験した後は、どのお子さんでもストレス反応が出ます。これは正常な反応であり、大人が子どもの持つ力を信じ、落ち着いて関わることが大切です。

先生方の多くが被災地に暮らす被災者であり、経験したことのない状況下で、不安や戸惑い、さまざまなストレスを抱えています。しかし、先生を含め周りの大人が安定していると子どもは安心するので、セルフケアでストレスをため込まないことが重要です。

熊本地震などで注目されるようになった「支援者支援」。今後の災害では、被災した子どもたちとの接し方について、先生方が業務として対応する上でヒントとなるような専門的な知識を提供することなども、支援者支援の新しい形となるかもしれません。

平成30年9月1日（毎月1日発行） 第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

西日本豪雨災害（平成30年７月豪雨災害） 特集２ 防災啓発

まさか、我が家が・・・

激甚化する自然災害で、自分の命、家族の命を守るために、私たちにできること。

西本アキタカさんの家の前を流れる川の被害状況（撮影７月９日：広島県安芸郡坂町小屋浦）

「自分は大丈夫」が思わぬ危険に

被災当日の出来事を現場で語る西本アキタカさん

まさか川が逆流するなんて・・・

広島県安芸郡坂町の西本アキタカさんは、7月6日の夜、家の前を流れる川が激流と化す様子から目が離せませんでした。川を挟んで西本さんの家と反対の地域はすでにひどい浸水被害があり、住人たちは家から避難しています。

「我が家は、大丈夫よね…」

妻のアキエさんと共に不安に駆られながらも、川の流れの向きから自分の家は被害を免れると思っていました。どんなにひどい台風や大雨でも、これまで西本さんの家が水の被害に遭うことは一度もありませんでした。ところが、そこへ川上から大きな岩が転がってきました。岩が川の流れをせき止め、濁流は行き場を失い、激しく逆流を始めたのです。西本さんの家を目掛けて、大量の水や土砂が押し寄せます。

「誰かー！たすけてー！」

西本さん夫妻は窓を開けて助けを求め、すぐ近くに居た自衛隊の素早い対応によって最悪の状況を免れました。

この西本さんのように「これまでは大丈夫だった。だから、今回も大丈夫」と思い込む（バイアスがかかる）ことが「正常性バイアス」といわれる心理的現象です。西日本豪雨災害でもこの思い込みによって逃げ遅れた方が多数いらっしゃいました。

西本さんも今後は「自分（我が家）は大丈夫」という思い込みを捨て、警報や勧告に従って素早い避難を行うことが自分や家族の命を守る、ということに気づかされたようです。

自らを助け、共に助かる

大雨による洪水、土砂災害などから助かるために、まずは意識と知識を高めて自らの命を守り、“共に助け合う”地域のコミュニティー力を育てましょう！

突然の災害から命を守り、暮らしをつなぐためには、日頃から「自助・共助」の備えが大切です

消防や自衛隊、行政などの「公助」は、大規模な災害時には限界があります

風水害から命を守るために

1 住んでいる地域を知る

日頃から防災・減災に関する研修や地域で開催される訓練に参加しましょう。早めに安全な場所へ避難するために、住んでいる地域の危険エリア（ハザードマップ）や、避難場所・経路も正確に確認しておきましょう。

2 情報を理解し、活用する

気象庁の発表する「警報」「特別警報」などの情報、また、行政が発表する「避難勧告」などの情報を理解しておくとともに、テレビ、ラジオ、インターネットなどを活用し、最新の情報を得られるようにしましょう。

3 隣近所の日頃からのお付き合い

一人では避難が難しい人たちに声をかけ、あるいは声をかけてもらって一緒に避難をすることは、命を守ることにつながります。地域のさまざまな活動に参加するなど近隣の住人とのコミュニケーションが大切です。

『地域コミュニティーの防災力向上』をめざして

日赤は災害対策の一つとして『防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）』に積極的に取り組んでいます。『災害エスノグラフィー（過去の災害の追体験）』『災害図上訓練（DIG）』など、プログラムも充実。詳しくは、お住いの地域の日赤支部にお問い合わせください。

日赤　防災セミナー　検索

日赤の防災セミナーについて詳しくはこちら

「遺産を贈ります」～遺贈（いぞう）という選択～

“自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を寄付したい”
日赤では、皆さまの尊いご意思に応えるため、遺言によるご寄付（遺贈）を承っております。

遺言によるご寄付

遺言により、自分の財産を特定の個人や団体に贈ることを「遺贈」といいます。この遺言による相続は、民法が定める法定相続の規定よりも優先され、遺産の受取人やその内容を指定することができます。この方法で、財産の全部もしくは一部の受取人として日本赤十字社を指定していただくことができます。

流れ

1　遺言書の作成
遺言をするには民法で定められた一定の方式で遺言書を作成することが必要です。
無効、紛失・偽造を避けるため、「公正証書遺言」をお勧めします。

2　遺言書の保管・管理
公正証書遺言を作成した場合、原本は公証役場に保管されます。

3　遺言の執行
遺言執行者がご逝去の通知を受けて、遺言内容を執行します。

遺贈ストーリー

赤十字に、託します

山内香住 様（大阪府 享年94）

姫路赤十字病院などで看護師として働いてこられた山内さん。後継者育成にも尽力され、多くの教え子から慕われた山内さんですが、お子様はおらず、「自分が亡くなった時には、財産は赤十字に寄付すると遺言で決めている。その時には、必要な手続きのために協力をお願いね」と姪の森田麻理さんにお話しされたそうです。赤十字とのご縁を大切にされた方でした。

左から３人目が山内香住様（昭和 41 年当時）

ご親族のお気持ち　森田麻理 様

赤十字への遺贈を機に叔母がお世話になった方々から私の知らない看護師や教育者としての一面を聞くことができて、これも叔母の計らいなのかもしれないと皆様に感謝しています

《ご遺族による相続財産のご寄付について》

ご遺族の方が相続された財産を寄付していただくこともできます。相続税の申告期限内（相続開始があったことを知った日の翌日から10カ月以内）に日本赤十字社に寄付した場合、ご寄付いただいた財産には相続税がかかりません。

日赤　遺贈　検索

詳細・問い合わせは日赤のウェブサイトをご確認ください。

ドキドキ体験！みんなのボランティア vol.4

＊お祭りサポートボランティア＊

at 特別養護老人ホーム　さやま苑（埼玉県）

カラオケ大会に出場する利用者の側で応援します。

たくさんの出店でボランティアが大活躍、利用者に明るく声をかけます。
介添えは楽しく会話しながら、お祭りを見て回ります。

JASRAC 出 1809287-801

年に一度のお楽しみ、夏祭りの思い出作りをお手伝い

狭山市赤十字奉仕団の老人ホームのお祭りサポートボランティアに参加しました。ボランティアは利用者の皆さんのご希望を聞きながらお祭り会場を回り、さまざまな介添えをする担当と、もつ煮やカレーなど飲食物の出店担当に分かれます。約２時間の間、介添えと販売を両方体験しましたが、お手伝いというよりも利用者の皆さんと一緒に楽しく参加しているような気持ちで、あっという間に終了時間となりました。いつもはお休みになっている時間が多い皆さんなので、体調を気遣い、「もうお部屋に戻りますか？」とお聞きしましたが、皆さんそろって「まだお祭りにいたい」とおっしゃいます。お元気で過ごしていただきたいという気持ちが込められた、心が温かくなるボランティア体験でした。

お住まいの地域の窓口はウェブサイトでもご案内

jrc.or.jp/volunteer/search/

※ボランティアの活動内容や受け入れ状況は地域によって異なります。詳細は日赤支部にお問い合わせください。

私が体験します！

こんにちは。40代の主婦、赤井十子（あかいとうこ）です！子育てがいち段落してできた時間を活用して、困っている人や地域の役に立つ方法を探しています。

平成30年9月1日（毎月1日発行） 第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 平成30年9月1日（毎月1日発行）

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、
日本赤十字社の活動は行われています。

全国

日赤とAmazonが協定締結「アレクサ、赤十字で100円寄付して」

7月30日、日本赤十字社はアマゾンジャパン（以下、Amazon）と「災害に関するパートナーシップ協定」を締結しました。これにより、日赤の災害に関する活動強化を目的に、Amazonのあらゆるサービスや技術を活用した連携協力を推進。最初の取り組みとして、決済サービス「Amazon Pay」を利用し、音声サービス「Amazon Alexa」で日赤への寄付が可能になる機能「日本赤十字社」の提供をスタート。この機能を有効にして「アレクサ、赤十字で100円寄付して」などと、Amazon Echoシリーズをはじめとする Alexa搭載スピーカーに話しかけることで、日本で初めて声で寄付ができるようになりました。

調印式に出席した日赤の大塚義治副社長は「Amazonが持つ技術と弊社が蓄積してきた経験とノウハウを連携し、相乗効果を発揮して、課題をともに解決していけたらと願っております」と期待を寄せました。

＊AmazonはAmazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

話題のAlexa搭載のAmazon Echoシリーズ（左）。画面付きの「Echo Spot（エコー スポット）」（右）

アマゾンジャパンのジャスパー・チャン社長（左）と日赤の大塚義治副社長

宮城県

タイの学生らが石巻の中学校を訪問 国の垣根を越えて災害への意識を再確認

JRC（青少年赤十字）の国際交流事業として7月26日、タイのRCY（レッド・クロス・ユース）の高校生・大学生ら11人がJRC加盟校である石巻市立住吉中学校を訪問。JRCの生徒は3.11の恩返しという強い思いで実施している街頭募金などの活動を発表し、RCY側はタイ赤十字社の災害救護などを発表。タイの学生らは防災意識が高く、互いに充実した交流となりました。

生徒たちはタイの歌や踊りを見学したり、振り付けを教わった

福島県

原発事故の対応拠点「Jヴィレッジ」 緑のグラウンドが、みずみずしく復活

7月28日、東京電力福島第一原発事故の対応拠点として使用されていたサッカーのナショナルトレーニングセンター「Ｊヴィレッジ」が、東日本大震災と原発事故から7年4カ月ぶりに営業を再開。福島県が「復興のシンボル」とするＪヴィレッジ再建には、震災直後にクウェート政府から日赤を通じて福島県へ送られた海外救援金の一部が活用されています。

天然芝のピッチやホテル棟などを完備し、再スタートを切った

福井県

名誉副総裁、高円宮妃殿下がご臨席 創立130周年の記念行事

7月24・25日、福井県支部の創立130周年の記念行事が開催されました。博愛社病院（現 日赤医療センター）初代院長、橋本綱常の胸像除幕式など多彩な催しを実施。記念大会にご臨席された高円宮妃殿下は、被災地支援などの活動報告に熱心に耳を傾けられ、高い関心をお示しになられました。妃殿下は福井赤十字病院の緩和ケア病棟なども訪問されました。

入院患者に声をかけられる高円宮妃殿下

石川県 長崎県

“静脈を初めて見た！” 親子で学ぶ、献血と命の大切さ

夏休みに合わせ、献血への理解を深める親子イベントが開催。石川県赤十字血液センターで7月28日に行われた献血体験イベントでは、自分の静脈を観察。小学4年生の女の子は「静脈を初めて見た。ぐちゃぐちゃしていて面白い！」と興味津々。29日には長崎県の献血ルーム西海で献血教室が開かれ、子どもたちはクイズや実験を楽しみながら献血の大切さを学びました。

腕に赤外線を当てて静脈を観察した（石川）

和歌山県 山口県

“人を癒やす仕事”をしよう 医療の仕事体験イベントが大盛況！

山口赤十字病院では7月26日、高校生対象の看護体験を実施。「1日看護師」の任命証を渡された50人の生徒へ、大林由美子看護部長は「看護師は病む人を癒やす仕事です。笑顔で患者さんと接しましょう」と声をかけました。28日には、日赤和歌山医療センターで初開催された職業体験イベントに約60人の小学生が参加。手術支援ロボットの操作など、子どもたちは真剣な表情で体験しました。

お菓子を薬に見立てて薬剤師を体験する子どもたち（和歌山）

広島県

あの日、生き残った職員たちは・・・ 8月6日、広島赤十字・原爆病院の慰霊式

西日本豪雨の爪跡が残る広島県で、8月6日、広島赤十字・原爆病院が原爆殉職職員ならびに戦没職員慰霊式を執り行い、赤十字職員らが黙とうをささげました。原爆投下によって死者51人、重軽傷者250人に上る多数の被害者を出しながらも、当時、生き残った職員たちは不眠不休で懸命の治療にあたりました。彼らの姿こそ、赤十字の基本理念である「人道」の原点と呼べるものです。

約150人が参列し、尊い命を失った職員に黙とうをささげた

大阪府

大阪府北部地震から約１カ月 赤十字ネットワークを生かし防災ボラが活躍

6月18日の発災後から７月下旬にかけて、府内の赤十字防災ボランティア、延べ136人が茨木市と高槻市の災害ボランティアセンター（ボラセン）の運営支援を行いました。近隣府県の赤十字防災ボランティアの協力を得て、ネットワークを存分に発揮した継続支援が実現。協働したボラセンスタッフは「経験豊かな赤十字ボランティアの存在は、本当に心強かった」と話されました。

被災者からのニーズの受付やマッチングなど活動は多岐にわたる
※西日本豪雨災害でも多くの防災ボランティアが活動しました

赤十字NEWSが入館証の代わりになります！

オンワード樫山
秋のファミリーセールショッピングが支援に

売り上げの一部が日赤に寄付されます

9／15（土）16（日）
22（土）23（日）24（月）
29（土）30（日）

場所 オンワード樫山 芝浦第3ビル
〒108-8439 東京都港区海岸3-14-11

入館証引換所で
赤十字NEWS 9月号を
ご提示ください

＊引換所／芝浦第4ビル（東京都港区海岸3-14-21）

【詳細はこちら】
https://questant.jp/q/PI16VEQN

【お問い合わせ】
03-5476-5505
株式会社オンワード樫山
環境経営課
（受付時間／平日10:00～17:00）

西日本豪雨災害被災地で、オンワード提供の軍手が配布されました。家の掃除やがれきの撤去ではけがの恐れがあるため、軍手はとても重宝されました。

present プレゼント

株式会社オンワード樫山
ブランド名：23区
ストール
計5名さま

紺色と白色の２色をご用意してます。どちらか好きな色を記載してください。ご希望の色の記載がない場合は紺色として抽選をさせていただきます。

毛100%

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。
①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤希望の色（紺色または白色）
⑥赤十字NEWS 9月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑦9月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
A.表紙 B.被災地に寄り添って
C.まさか、我が家・・・ D.遺贈
E.ドキドキ体験！みんなのボランティア
F.エリアニュース
G.健康豆知識 H.プレゼント
I.ワールドニュース
⑧赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

郵送／〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS 9月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785 メール／koho@jrc.or.jp
（件名「赤十字NEWS 9月号プレゼント係」）
9月30日（日）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

「平成30年7月豪雨災害」義援金、受け付け中

平成30年台風第７号および前線等に伴う大雨災害により、西日本を中心に甚大な被害が出ました。
この災害で被災された方々を支援するため、下記のとおり義援金を受け付けております。
お寄せいただいた義援金は、被災府県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災者にお届けいたします。
皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

■義援金名称：平成30年７月豪雨災害義援金
■受付期間：平成30年12月31日（月）まで
■協力方法：

［1］郵便振替によるご協力（ゆうちょ銀行・郵便局）
口座記号番号 00130-8-635289
口座加入者名 日赤平成30年７月豪雨災害義援金
※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券を受領証の代わりとして、寄附金控除の申請にお使いいただけます。
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます（ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります）

［2］銀行振り込みによるご協力
①三井住友銀行 すずらん支店 普通 2787545
②三菱UFJ銀行 やまびこ支店 普通 2105538
③みずほ銀行 クヌギ支店 普通 0620405
※口座名義はいずれも「日本赤十字社（ニホンセキジュウジシャ）」
※銀行振込の際の利用明細票を受領証の代わりとして、寄附金控除の申請にお使いいただけます。
※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります

［3］岡山・岐阜・京都・愛媛・広島・高知・福岡・島根・山口・兵庫の各県支部でも受け付けています。
（９月１日現在）
日本赤十字社 平成30年7月豪雨災害義援金 検索
http://www.jrc.or.jp/contribute/help/307/

「知ってて良かった！健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター＆ナースが教える
知ってて良かった！ 健康豆知識

女性に多い「バセドウ病」、元気に見えても要注意！

file. 48

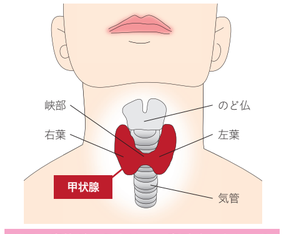
岐阜赤十字病院 院長 中村 重徳（なかむら しげのり）
岐阜県岐阜市岩倉町３丁目３６ TEL 058-231-2266

バセドウ病は、甲状腺ホルモンが過剰に作られて全身の代謝が必要以上に高まる病気です。男性よりも女性に多く、国民の200人に1人が病気にかかっていると言われています。

バセドウ病になると、安静にしているにもかかわらず、まるで“入浴後すぐに100mを走っている”ような状態に突然陥ったり、人によっては動悸や息切れ、イライラ、疲れやすさなどを感じやすくなるなど、心臓病や更年期障害と間違われることも少なくありません。特に、高齢者は身体的な症状が出にくい傾向があり、頭の働きが低下するなどの症状ばかりが目につき「認知症」と勘違いされることも。

しかも、バセドウ病の患者さんは傍目からはとても元気に見えるので、病気への理解が得られないことによる二次被害も心配です。仕事になると手が震え出すなどの症状に悩む人もおり、周囲のサポートが欠かせません。

以前は一生治らないとされてきたバセドウ病も、現在はほとんどが1～3カ月の薬の服用で症状が落ち着くようになりました。しかし一方では、たばことストレスによって悪化したり、長期にわたって治療をしないでいると、脳梗塞や早期の骨粗しょう症になったりする可能性があります。右のチェック項目に複数の心当たりがある方は早めの受診をおすすめします。



以下の症状がある人は、一度受診しましょう。
- □ 疲れやすさやだるさを感じる
- □ 手足の震えがある
- □ 運動もしていないのに動悸がする
- □ のど仏の下側にある甲状腺が腫れている
- □ 以前とは目つきが変わったと周囲に言われる

平成30年9月1日（毎月1日発行） 第940号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

WORLD NEWS

●ギリシャ大規模森林火災

炎は水際まで押し寄せリゾート地・マティを焼き尽くした 写真:AFP/アフロ

ギリシャで発生した森林火災 夏休み、多数の親子連れも巻き添えに

7月、ギリシャのアテネ近郊で少なくとも91人が死亡する森林火災が発生しました。日赤は資金援助を決定し、ギリシャ赤十字社の緊急救援活動を支援しています。

夏休みシーズンのキャンプ地で多くの子どもたちが犠牲に

7月23日にギリシャで発生した大規模な森林火災は、死者91人、負傷者187人（8月2日現在）という大きな被害をもたらしました。被害が集中したのは、首都アテネ近郊に位置する海沿いのリゾート地・マティ。高齢者には退職後の保養地として、また子どもたちにはキャンプ地として人気の場所です。多くの道路や避難経路が火災によってふさがれ、家屋や車も破壊されました。夏休みシーズンに入っていたこともあり、訪れていた多くの親子連れなどが犠牲になりました。

荒れ果てたマティの通りで生存者を探すギリシャ赤十字社のチーム

火災原因の究明が進められていますが、国際赤十字・赤新月社連盟はヨーロッパを襲っている強烈な熱波による影響を指摘。火災の発生時は現場に強風が吹き荒れていたという声もあり、風にあおられて勢いを増した炎と煙が、逃げ惑う人々の行く手を阻んだのではないか、という見方も出ています。

身を寄せ合い、親子は抱き合ったまま…ギリシャ赤十字社が遺体を発見

この大惨事に対して、ギリシャ政府はEU諸国などに国際的な緊急支援を要請。ギリシャ赤十字社も発生直後から応急手当てなど被災者へのサポートを開始しました。翌24日には、なおも火がくすぶる状況の中、ギリシャ赤十字社の災害対応チームが現地での活動を展開。治療やこころのケアなどにあたりました。しかし、そのような救助活動中に、子どもを含む26人の人々が抱き合った状態の遺体を発見。ギリシャ赤十字社のニコス・エコノモポロス会長は報道メディアに対して「子どもたちと一緒に逃げ道を探したが間に合わず、身を寄せ合ったまま亡くなったのだろう」とコメントしました。

25日以降もギリシャ赤十字社は緊急救援活動を継続し、それまでの支援に加えて家族の安否確認などの支援を行っています。また、厳しい状況に置かれている被災者7100人（2367世帯）に対して生活再建を含む支援を実施しています。

日赤は、ギリシャ赤十字社および国際赤十字・赤新月社連盟が実施する緊急救援活動を支援するため、6万6000スイスフラン（約740万円）の資金援助を行うことを決定しました。

2018年インドネシア・ロンボク島地震　救援金受け付け中

人気リゾート地で短期間に巨大地震が複数回発生、35万人超が避難

インドネシアのロンボク島で7月下旬から8月にかけて、マグニチュード7クラスの地震が頻発、甚大な被害をもたらしました。同地域では、大きな余震が続いており、被害が拡大しています。インドネシア赤十字社は発災直後に緊急チームを立ち上げ、被災地に110人のスタッフとボランティアを派遣し、負傷者の救助活動、被災者への救援物資の配布、こころのケアなどを実施。

これまでに460人の死亡が確認され、35万人以上が避難生活を強いられています。現地では、食糧、水、避難所、医療などが不足しています。

この事態に対し、日本赤十字社は次のとおり海外救援金を受け付けています。

皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

建物から落ちてくる破片による負傷者も数千人にのぼる

幼い子どもの治療に当たるインドネシア赤十字社スタッフ

■救援金名称　2018年インドネシア・ロンボク島地震 救援金

■受付期間　平成30年11月30日（金）まで

■協力方法

1. 郵便振替によるご協力（ゆうちょ銀行・郵便局）

口座番号　00110-2-5606　口座名義　日本赤十字社

通信欄に「インドネシア・ロンボク島地震」とご記入ください。

※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます

（ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります）

2. 銀行振込によるご協力

①三井住友銀行　すずらん支店　普通　2787762

②三菱UFJ銀行　やまびこ支店　普通　2105768

③みずほ銀行　クヌギ支店　普通　0623420

※口座名義はいずれも「日本赤十字社」　※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります

3. クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easyによるご協力

詳細は日赤のウェブサイトをご覧ください。

日赤　救援金　2018年インドネシア・ロンボク島地震　検索

※今月の「1枚の写真から」は休載となります。